

令和4年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立音戸中学校
(音戸中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学	理科
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0	
令和8年度	—	—	—
令和7年度	—	—	—
令和6年度	—	—	—
令和5年度	—	—	—
令和4年度	-3.0	-4.4	-1.3

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p>国語</p> <p>本校 66 % 全国 69 % 県 69 %</p> <p>話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 情報の扱い方 言葉の特徴や使い方</p>	<p>重点課題</p> <p>◎自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確にして書くことに課題がある。特に、情報の扱い方に関して、引用の仕方を正しく理解していない。[書くこと] (平均正答率 36.5% 全国平均 46.5%) ◇根拠を明らかにして、考えを述べることに課題がある。[書くこと]</p> <p>改善の方策</p> <p>◎意見文を書く活動を取り入れ、与えられた資料から考えの根拠となる部分を抜き出し、引用することを条件に設定する。意見文を生徒同士で読み合い、根拠として引用した箇所が適切か、正しく引用しているかについて意見交換する。 ◇目的を明確にした上で、文章中の表現や必要な情報など根拠を見つけて表現する指導を行う。</p> <p>検証</p> <p>◎定期テストの意見文の問題・意見にふさわしい根拠について考える問題 (第3学年および第2学年 11月) 目標 46% → 結果 48% ◇全国学力 (設問 2 三) の類似問題 (第2学年 2月) 目標 50% → 結果 64.7%</p>
<p>数学</p> <p>本校 47 % 全国 51.4 % 県 50 %</p> <p>数と式 図形 関数 データの活用</p>	<p>重点課題</p> <p>◎◇日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。[関数] グラフや表を使って問題解決することと、筋道を説明することに課題がある。[データの活用] (全国平均との差 -1.9)</p> <p>改善の方策</p> <p>◎◇図表やグラフを用いて問題解決する場を設定し、根拠を示しながら説明する学習活動を行う。</p> <p>検証</p> <p>◎全国学力 (設問 8 (1) (2)) の類似問題 (第2学年, 12月) 目標 50% → 結果 56% 関数領域における定期テストの問題 (第3学年 11月 第2学年 11月) 目標 3年 60% → 結果 64%, 目標 2年 60% → 結果 60%</p>
<p>理科</p> <p>本校 48 % 全国 49.3 % 県 49 %</p> <p>エネルギー 粒子 地球 生命</p>	<p>重点課題</p> <p>◎◇科学的に探究する学習場面において、データを用いて行った他者の考えについて、条件と実験結果の関係や妥当性を考え、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。 (設問 2 (3) 地球) (平均正答率 13.5% 全国平均との差 -15%)</p> <p>改善の方策</p> <p>◎◇課題発見解決学習を継続し、実験では、条件設定を確実にを行い、結果との因果関係を考えさせる。その上で、異なる条件や複数の条件がどのように関係するのか多面的、総合的に判断する場面を設定する。</p> <p>検証</p> <p>◎◇全国学力 (設問 2 (3)) の類似問題 (第2学年, 2月) 目標 40% → 結果 57%</p>

【来年度に向けて】

今年度の課題であった、自分の考えを根拠を元に表現する活動は改善が見られてきている。このことから、来年度も引き続き授業の中で自分の考えを表現する場を設け、表現力の育成を図りたい。